

第4章. 調査結果のまとめ

1. 住みよさと定住意向について

(1) 居住年数

- ・習志野市での居住年数は、20 年以上（生まれてからずっとを含む）の『長期居住者』が 54.7%となっている。前回調査（平成 18 年度）より 3.4 ポイント増加し、年々増加傾向にある。5 年未満の『短期居住者』は 16.2%、5 年以上 20 年未満の『中期居住者』は 28.3%となっている。『長期居住者』が多いのは、袖ヶ浦西、袖ヶ浦東、秋津・茜浜、実籾・新栄地区で 6 割以上となっている。
- ・習志野市に居住する理由は、「通勤・通学が便利」が最も多く 22.9%、次いで「居住環境がよい」が 20.3%、「家族の都合」や「仕事（職場）の都合」が 17%台となっている。
- ・習志野市に住む前の居住地は「東京都内」が最も多く 25.0%となっている。また、半数は『千葉県内』（50.1%）からの転入であり、「千葉市」が 13.9%、「船橋市」が 17.3%となっている。20 代から 40 代では「その他の道府県」からの転入が、50 代以上では「東京都内」からの転入が多くなっている。

(2) 住みよさ

- ・習志野市が『住みよい』と感じている人は 79.2%で、前回調査より 0.9 ポイント減少したものの、ほぼ横ばいで推移している。特に、津田沼、香澄・芝園、秋津・茜浜、向山地区の満足度が高く 8 割以上となっている。
- ・住みやすいと感じる理由として、「交通が便利である」が 69.0%で最も多く、次いで「災害が少ない」が 31.2%、「自然環境に恵まれている」が 24.5%、「住宅事情がよい」が 21.9%の順となっている。「交通が便利である」は津田沼地区が 9 割を占めている。香澄・芝園地区は「自然環境に恵まれている」と「街並みが整備されている」の割合が多くなっている。
- ・住みにくいと感じる理由として、「交通が不便である」が 37.2%で最も多く、次いで「街に活気が乏しい」が 22.0%、「福祉・医療が充実していない」と「生活基盤が遅れている」が共に 19.9%となっている。「交通が不便である」は香澄・芝園地区で 7 割半ば、東習志野地区で 6 割半ばを占めている。「街並みが整備されていない」は藤崎地区で、「住宅事情が悪い」は実籾・新栄地区で多くなっている。

(3) 定住意向

- ・習志野市に今後も「住み続けたい」と思っている人は 54.8%で、前回調査より 0.8 ポイント増加している。一方、『転出したい』と思っている人は 17.1%で、前回調査より 6.3 ポイント減少している。特に、低年齢層では転出したい傾向

が多くみられる。

- ・定住したい理由として、「愛着がある」が 31.8%で最も多くなっている。「自然環境がよい」は香澄・芝園地区で、「通勤・通学が便利」と「買い物・遊びに便利」は津田沼地区で多くなっている。
- ・転出したい理由として、「家族の都合」が 23.9%、「仕事の都合」が 21.0%の順となっている。「家族の都合」は向山と袖ヶ浦東地区で 4 割、「仕事の都合」は袖ヶ浦東地区で 4 割、「住宅の都合」は東習志野地区で 3 割半ばを占めている。

2. 市政全般について

(1) 力を入れるべき施策

- ・習志野市として力を入れるべき施策については、「高齢者施策」が 66.9%、「安心で安全なまちづくり」が 58.5%、「子育て支援施策」が 41.2%、「都市整備（交通関係の施策を含む）」が 35.1%、「環境の施策」が 35.0%の順となっている。
- ・「高齢者施策」は袖ヶ浦西地区で最も多く 8 割を占めている。「都市整備（交通関係の施策を含む）」は谷津、実花地区で 4 割半ば、「子育て支援施策」は藤崎、東習志野地区で 4 割半ば、「環境の施策」は向山地区で 4 割以上となっている。
- ・「子育て支援施策」は 20 代から 30 代で、「高齢者施策」は 40 代以上で割合が多くなっている。

(2) 具体的に取り組むべき施策

【高齢者施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「福祉・介護施設等の整備」が 35.5%、「高齢者医療など経済的支援の充実」が 34.4%となっている。施設面や医療負担に対する経済面への要望が高くなっている。
- ・「高齢者医療など経済的支援の充実」は 60 代で 4 割、「働く場の確保」は 30 代で 3 割と多くなっている。

【障害者（児）施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「雇用対策・就労機会の充実」が 39.5%で最も多く、「生活機能向上のための支援」が 25.3%、「施設福祉サービスの充実」が 20.1%となっている。就労の機会や社会参加の支援への要望が高くなっている。
- ・「雇用対策・就労機会の充実」は働き世代である 40 代 50 代で 4 割半ばを占め、「生活機能向上のための支援」は 20 代で 3 割弱となっている。

【子育て支援施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「子育てと就労の両立支援」が 40.4%、「乳幼児の保育教育施設の整備」が 31.0%、「夜間保育や短期の一時預りなど保育メニューの充実」が 22.6%となっている。子育てと仕事を両立させたいものの子どもを預ける施設数が少ないことへの対策に要望が高くなっている。
- ・「夜間保育や短期の一時預りなど保育メニューの充実」は 20 代から 50 代で 2 割後半から 3 割を占めている。「乳幼児医療など経済的支援の充実」は 20 代と 30 代の若い世代で割合が多くなっている。

【健康づくりの施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「救急診療、休日・夜間診療等の充実」が 45.1%、「医療施設の充実」が 37.6%、「がん検診等健康診査の充実」が 23.1%となっている。休日や夜間診療の実施に対する要望や、健康管理を支援する施策への要望が高くなっている。
- ・「救急診療、休日・夜間診療等の充実」は 20 代 30 代で 5 割以上、「医療施設の充実」は 50 代で 4 割半ば、「小児救急医療体制の整備」は 30 代で 3 割前半となっている。

【学校教育の施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「いじめ・不登校を生まない教育の推進」が 39.9%、「教職員の資質の向上」が 37.2%、「確かな学力を培う教育の推進」が 27.9%となっている。いじめや不登校に対する対応策や学力定着への施策に関する要望が高くなっている。
- ・「教職員の資質の向上」は 40 代 50 代で 4 割、「確かな学力を培う教育の推進」は 40 代と 60 代で 3 割と多くなっている。

【生涯学習・生涯スポーツの施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「スポーツ施設の整備・充実」が 27.3%、「図書館の整備・充実」が 26.2%、「生涯学習施設の整備」が 20.0%となっている。各種施設の整備に関する要望が高くなっている。
- ・「スポーツ施設の整備・充実」や「図書館の整備・充実」は若い世代で割合が多く 3 割を超えている。一方、「各種公民館講座の充実」は年齢が高くなるにつれて割合が多く 2 割となっている。

【市民協働の施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「市民協働にかかわる市民、市民活動団体、企業・学校と市の連携、交流」が 29.0%、「町会、自治会活動の支援」が

第4章. 調査結果のまとめ

27.0%となっている。市との連携や交流、活動への支援に関する要望が高くなっている。

- ・「町会、自治会活動の支援」は70歳以上で3割前半、「まちづくりへの市民参画（まちづくり会議等）の促進」は20代で2割半ば、「ボランティア活動（個人）の支援」は40代で2割前半となっている。

【環境の施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「公園や緑地の整備」が29.6%、「ごみの減量化・リサイクルの推進」が25.6%、「自然環境の保全」が24.5%、「路上喫煙・ポイ捨て等の防止の強化」が24.3%となっている。自然環境の整備に付随する環境保護やゴミ問題に関する要望が高くなっている。
- ・「公園や緑地の整備」や「自然環境の保全」は男性の割合が多く、「地球温暖化防止対策の推進」や「ごみの減量化・リサイクルの推進」は女性の割合が多くなっている。

【都市整備の施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「身近な生活道路の整備」が26.1%、「バス路線の利便性の拡大・充実」が20.7%、「良好な住環境の維持、保全」が19.0%となっている。生活に密着した道路の整備やバス路線の充実に要望が高くなっている。
- ・「幹線道路の整備」や「踏切道の改善・解消」、「良好な住環境の維持、保全」は男性の割合が多く、「バス路線の利便性の拡大・充実」は女性の割合が多くなっている。
- ・「身近な生活道路の整備」は藤崎地区で4割、「バス路線の利便性の拡大・充実」は東習志野、香澄・芝園地区で3割半ば、「踏切道の改善・解消」は津田沼地区で3割前半となっている。

【安全で安心なまちづくりの施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「防犯に配慮した都市環境整備」が29.8%、「消防・救急体制の整備・充実」が27.7%、「減災対策の推進」が24.3%、「地域防犯活動の推進」が22.7%となっている。防犯体制や消防・救急体制が整備されたまちづくりへの要望が高くなっている。
- ・「消防・救急体制の整備・充実」は50代で3割半ば、「防犯に配慮した都市環境整備」は30代40代で3割後半となっている。

【産業振興の施策】

- ・取り組むべき施策として多かったのは、「商店街の活性化」が44.4%、「雇用・

就業の支援（雇用の場の創出・確保）」が 34.2%となっている。まちの活性化と働ける場の提供への要望が高くなっている。

- ・「雇用・就業の支援（雇用の場の創出・確保）」は 20 代と 50 代で 4 割を超えている。
- ・「雇用・就業の支援（雇用の場の創出・確保）」は香澄・芝園地区で 4 割後半、「地産地消の推進」は袖ヶ浦東地区で 3 割、「中小企業の育成」は大久保・泉・本大久保地区で 2 割となっている。

（3）施策の満足度

- ・習志野市が取り組んでいる施策について、満足度が高かった施策は、「都市整備の施策」（32.5%）、「産業振興の施策」（25.9%）、「高齢者施策」（22.8%）、「子育て支援施策」（22.8%）となっている。
- ・不満足度が高かった施策は、「安全で安心なまちづくり」（15.9%）、「健康づくりの施策」（12.9%）、「環境の施策」（12.9%）、「学校教育の施策」（12.3%）となっている。防犯体制、医療体制の施策、環境問題、自然環境を整備する施策、いじめや不登校に関する施策に対する検討が必要と思われる。

3. 経営改革について

（1）行政サービスと費用負担の関係についての考え方

- ・行政サービスと費用負担の関係については、現状維持を望む声が多く、「今の行政サービスのままでよいので、負担も今のままがよい」が 43.2%で最も多くなっている。次いで、「今の行政サービスが充実するのなら、負担は増えてもよい」が 21.7%で、行政サービスの充実と負担は比例すると考える人が多いと思われる。
- ・20 代では負担増に関して消極的であり、「今の行政サービスのままでよいので、負担も今のままがよい」が他の世代よりも多くなっている。
- ・「今の行政サービスが充実するのなら、負担は増えてもよい」は実花地区が 3 割前半で最も多く、「今の行政サービスのままでよいので、負担も今のままがよい」は東習志野地区が 5 割、「今よりも行政サービスを縮小してもよいので、負担を減らして欲しい」は谷津、袖ヶ浦西、香澄・芝園地区が 2 割半ばとなっている。

（2）公共施設の民間移行についての考え方

- ・公共施設の民間移行については、「民間移行を含め適切に対応して欲しい」が 54.1%と最も多く、市の適切な対応を期待していると思われる。次いで、「公設

第4章 調査結果のまとめ

公営を維持して欲しい」が 13.5%、「公設民営、民設民営として欲しい」が 11.9%となっている。

- ・「民間移行を含め適切に対応して欲しい」は 20 代から 50 代で 6 割前後と多くなっている。
- ・「公設公営を維持して欲しい」は袖ヶ浦西地区で 2 割、「公設民営、民設民営として欲しい」は津田沼地区で、「統廃合を進めて欲しい」は実花地区で多くなっている。

(3) 公共施設の施設数・規模についての考え方

- ・公共施設の施設数や規模を維持したまま改修・改築を行なうべきかどうかについては、「適切な規模に縮小していくべき」が 39.1%、「現状の施設数・規模を維持すべき」が 21.5%、「施設の統廃合等により施設数を縮小すべき」が 19.6%、「これからも施設数・規模を拡充していくべき」が 11.1%となっている。公共施設の施設数や規模を縮小すべきであると考えてる人は 5 割以上を占めている。
- ・「施設の統廃合等により施設数を縮小すべき」は 60 代で割合が多くなっている。
- ・「これからも施設数・規模を拡充していくべき」は谷津、東習志野地区で、「現状の施設数・規模を維持すべき」は袖ヶ浦西、大久保・泉・本大久保地区で、「適切な規模に縮小していくべき」は実籾・新栄地区で、「施設の統廃合等により施設数を縮小すべき」は秋津・茜浜地区で割合が多くなっている。

(4) 今後取り組むべき行政改革の施策

- ・今後取り組むべき行政改革の施策については、「収入に見合った事業の縮小・削減」が 35.7%と最も多く、事業予算の見直しを期待する意見がみられる。次いで、「職員数・人件費の削減」が 32.8%、「職員の資質向上」が 23.1%、「行政改革の内容の情報提供及び情報公開」が 22.7%となっている。
- ・「収入に見合った事業の縮小・削減」は 20 代 30 代で 4 割、「職員数・人件費の削減」は 60 代で 4 割半ばと多くなっている。
- ・「行政改革の内容の情報提供及び情報公開」は香澄・芝園地区で 3 割弱、「わかりやすい市役所の組織づくり」は東習志野地区で 2 割半ばとなっている。

4. 行政情報について

(1) 情報の入手方法

- ・市からの情報取得の手段については、「広報紙」が 78.3%で最も多くなっている。次いで、「地域の回覧板」が 27.8%、「ホームページ・インターネット」が 25.8%、「新聞（タウン誌を含む）」が 15.4%の順となっており、紙媒体からの

入手が多い。

- ・「地域の回覧板」は年齢が高くなるにつれて割合が増加傾向にあり、「ホームページ・インターネット」は年齢が低いほど、割合が多くなっている。

(2) 知りたい情報

- ・市民として知りたい情報については、「新しい制度や事務手続き」が 47.1%と最も多く、次いで、「市のサービスの内容」が 39.7%、「市内施設の紹介・利用方法・予約状況」が 37.2%、「市の予算の使い方」が 34.2%となっている。生活と関わりのある制度や手続き方法、サービスの一環としての市内施設の利用方法等に関心が高くなっている。
- ・男性は市政に関心が高く、「市の予算の使い方」「市の今後の計画」「市長の基本的な考え方」の割合が多く、女性は提供されるサービス内容に関心があり、「市のサービス内容」「新しい制度や事務手続き」「市民サークル等の募集」の割合が多くなっている。
- ・「市内施設の紹介・利用方法・予約状況」は袖ヶ浦東地区で5割、「市の予算の使い方」は東習志野地区で4割となっている。

5. 仕事や家庭以外での活動について

(1) 活動への参加状況

- ・仕事や家庭以外での活動については、「現在も活動していないし、今後も活動しない」が 45.5%で最も多くなっている。次いで、「現在活動していないが今後活動してみたい」が 28.9%、「現在活動している」が 20.4%となっている。『参加意向あり』は 49.3%となっている。
- ・『参加意向あり』は 40代から 60代で多く、5割半ばとなっている。一方、「現在も活動していないし、今後も活動しない」は 20代 30代で5割となっている。
- ・活動している（してみたい）団体として、「サークル活動」が 43.9%で最も多く、次いで、「ボランティア活動（個人参加）」が 23.2%となっている。
- ・活動している（してみたい）内容として、「スポーツ活動」が 25.0%、「文化・芸術活動」が 21.8%となっている。男性は「環境保全活動」「スポーツ活動」、女性は「保健・福祉活動」「文化芸術活動」の割合が多くなっている。

(2) 市民活動に参加しない理由

- ・仕事や家庭以外で現在活動していない理由については、「仕事が忙しい」が 43.9%で最も多くなっている。次いで、「どのような活動があるのかわからない」が 32.1%、「どのように始めたらよいのかわからない」が 22.9%、「興味の

ある活動がない」が 17.9%、「子育てが忙しい」が 13.0%となっている。

- ・男性は「仕事が忙しい」、女性は「子育てが忙しい」の割合が多く、日常の忙しさが活動できない理由となっている。

6. 都市イメージ（将来像）について

（1）希望する習志野市の都市イメージ

- ・習志野市の都市としてのありかたについては、「生活環境の整った快適で住みやすい都市」が 35.3%で最も多く、次いで、「保健・医療・福祉などの充実した福祉都市」が 25.5%となっている。福祉や生活基盤の整った都市が望まれている。
- ・男性は「生活環境の整った快適で住みやすい都市」、女性は「保健・医療・福祉などの充実した福祉都市」の割合が多くなっている。

（2）習志野市のイメージとしてふさわしい言葉

- ・将来の習志野市のイメージとしてふさわしい言葉については、「安全な」が 35.6%で最も多くなっている。次いで、「いきいきした」が 22.0%、「豊かな」が 19.4%、「人情味のある」が 16.2%、「親しみのある」が 15.8%、「充実した」が 15.6%となっている。
- ・男性は「落ち着いた」、女性は「いきいきした」の割合が多くなっている。